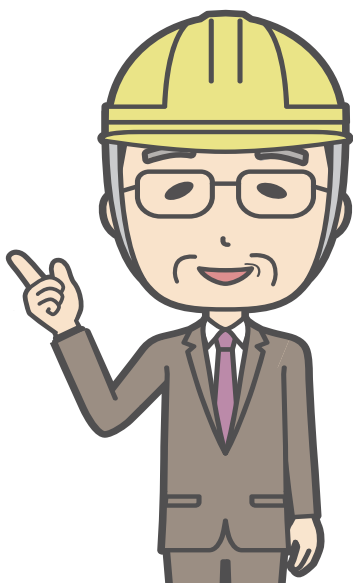


AIR 断震システムに取り組む「私の原点」

三誠 AIR 断震システム

代表取締役社長 三輪富成



私は、1973 (昭和 48) 年に東京理科大学工学部建築学科を卒業。卒論のテーマとして「**東京 23 区の広域避難地区の設定と将来の問題点の検証**」を選びました。私が在籍した浜田稔研究室の研究テーマが、「建物の火災発生メカニズムの研究」「都市における大火災の検証」「大地震発生時の避難地区設定提案」の 3 つであり、その関連テーマとして卒論に取り組んだのです。

浜田稔先生は東京大学では「コンクリートの浜田」と呼ばれ、コンクリート強度の研究で著名な先生でしたが、私が在籍したころは建築材料から離れ、「火災から人々を守る」をテーマとして取り組み「都市防災の浜田」といわれた方でした。

卒論執筆当時 (昭和 47 年) の東京は、足立区や葛飾区は田圃も多く、避難地区の設定も不要に思いましたが、再開発がスタートしていたので、「**今後、都市計画や防災の観点から行政の対策が必要である**」と記述。また関東大震災、東京大空襲時の火災旋風 (火災竜巻) により、数万の死者を出した隅田川沿い地区の課題もありました。最も懸念されたのが、23 区西部の中野区、杉並区、世田谷区の住宅地区。木造住宅が密集し、道路も狭く、避難地区の設定も難しい状態だったので「**大きな課題がある**」とコメントしました。

卒論の結論は、「**23 区全体では避難地区に収容しきれず、数十万人の犠牲を覚悟せざるを得ない**」として、都市防災の課題を浮き彫りにしました。

現在、AIR 断震システムを開発し、地震に強い住宅の普及に邁進していますが、常に思い出すのが浜田先生の教えと、卒論のテーマ。大規模災害時にも命と財産を守れる家づくり、町づくりを実現すべく、これからも努力して参ります。

